

2009年3月24日理事会承認

2009年度 事業計画書



学校法人 桃山学院

目 次

・理事長メッセージ.....	2
I 設置する学校・学部・学科・入学定員等.....	3
1. 桃山学院大学大学院	
2. 桃山学院大学	
3. 桃山学院高等学校	
4. 桃山学院中学校	
II 在校学生・学生数.....	3～4
1. 桃山学院大学大学院	
2. 桃山学院大学	
3. 桃山学院高等学校	
4. 桃山学院中学校	
III 役員・評議員・教職員数.....	4
(1) 役員	
(2) 評議員	
(3) 教員	
(4) 職員	
IV 所管別の主な事業計画	
1. 法人.....	5～7
〔重点目標〕	
(1) 学院中長期ビジョンの推進と、それに伴う中期経営計画の策定と実施	
(2) 各種「引当特定資産」の充実と効率的運用	
(3) 諸課題への対応と推進	
〔事業計画〕	
(1) 「桃山学院中長期ビジョン」の推進	
(2) 中高経営計画について	
(3) 財務関係	
(4) 人事・組織関係	
(5) 学院創立125周年・大学開学50周年記念事業関係	
(6) その他	
2. 大学.....	8～12
〔重点目標〕	
(1) 教育研究計画	
(2) その他の業務計画	
〔事業計画〕	
(1) 教学関係	
(2) 学生生活関係	
(3) 国際交流関係	
(4) 就職関係	
(5) 入試関係	
(6) 広報関係	
(7) 研究・情報関係	
(8) その他の業務関係	
3. 高等学校.....	13～14
〔重点目標〕	
〔事業計画〕	
(1) 教学関係	
(2) 課外活動関係	
(3) 国際交流関係	
(4) 進路関係	
(5) 入試関係	
(6) 広報関係	
(7) 施設・設備関係	
3. 中学校.....	15
〔重点目標〕	
〔事業計画〕	
(1) 教学関係	
(2) 課外活動関係	
(3) 入試関係	
(4) 広報関係	
(5) 施設・設備関係	

理事長メッセージ 一地域に根ざし、世界にはばたく

理事長 坪 井 清

2009年度 事業計画策定にあたって

2009年度は、桃山学院にとって「学院創立125周年・大学開学50周年」という大きな節目の年度にあたります。この記念すべき年度に向け2007年1月に、各種の周年記念事業を決定し同年4月より、学院の中長期ビジョンとも相俟って様々な事業や行事を行ってまいりました。

2008年度においては、大学では文学部を国際教養学部へ改組転換し、一方、高等学校では念願の「中学校(中高一貫教育)」を開設いたしました。建設関係では、和泉キャンパスに総合教育棟としての「聖ヨハネ館」を、昭和町キャンパスには第二体育館としての「記念体育館(ダビデ・ジム)」を建設し、さらにカンタベリー記念館(同窓会館)の耐震補強を含めたリニューアルを実施いたしました。これらの施設は、本学院の将来を見据えた経営政策としての戦略的な投資ですが、近い将来必ずや、本学院の発展に大きく寄与してくれるものと確信しております。

本2009年度においては、周年記念事業のメインとなる記念式典を9月に実施することとしています。本学院のルーツである英国からカンタベリー大主教をお迎えし、それを機に今一度、本学院の原点であるキリスト教精神について学生、生徒、教職員一同が再認識できるようにしたいと考えております。また、式典のほか年度を通して各種記念行事等も実施し、この記念の年を学院全体として大いに盛り上げることも計画しております。

このように2009年度は、本学院にとって大きな意味を持つ年ではありますが、この間、本学院の財政状況はストック面では一応良好な状態にあるといえますが、フロー面ではここ数年の予算でも明らかなように、大学での臨時定員増の終息が大きな影響を与えています。この間、決算での経常収支(帰属収入-消費支出)はプラスを確保してきましたが、2008年度決算ではマイナスとなる見込みが強くなっています。

このような財政状況を少しでも改善すべく2008年度に大学の国際教養学部改組転換に際し、入学定員を60名増加いたしました。しかしながら、昨今の少子化による志願者数減少や入学定員超過率の是正による学納金収入の減少に加え、大阪府の私学政策の変更による補助金の減少、さらには昨秋発生した未曾有の世界的金融・経済危機の影響により、国内景気の急激な落ち込みで更なる志願者数の減少見込みなど、一段と厳しい財政環境になったといえます。したがって2009年度においては、収支バランス上からは教学条件の維持向上を図りつつ、例年にも増した諸経費の一層の節減・圧縮に取り組むことが必要となりました。

2009年度予算編成にあたっては、近年の本学院財政状況に鑑み、学院中長期ビジョンにおける財務シミュレーションの中期的な目標必達を前提とし、2008年6月に本学院としては異例ともいえる理事長による「計画ベースから収入超過(プラスの帰属収支差額)を前提とした予算編成の実施」を周知徹底した上、予算編成を行いプラス予算とすることができました。本学院としましては、学院内各学校の永続性を担保しながら、かつこれらの教育・研究活動の環境整備を行うに適切な財政対応が望まれる時期にあることを認識し、ここに2009年度の事業計画を策定した次第です。

私学を取り巻く厳しい環境のもと、本学院のさらなる発展と中長期ビジョンに掲げた使命達成のため、理事会と教学が一体となって鋭意努力してまいりますので、関係各位皆様方の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

以 上

I 設置する学校・学部・学科・入学定員等 (数字は入学定員)

1. 桃山学院大学大学院

研究科名	博士前期課程(名)	博士後期課程(名)
文学研究科	16	4
社会学研究科	10	3
経済学研究科	10	3
経営学研究科	30	3
計	66	13

2. 桃山学院大学

学部名	学科名	入学定員(名)	編入学定員(名)
文学部	英語英米文学科	0	20
	国際文化学科	0	20
国際教養学部	国際教養学科	270	0
社会学部	社会学科	250	20
	社会福祉学科	100	0
法学部	法律学科	200	0
経済学部	経済学科	350	20
経営学部	経営学科	265	30
計		1,435	110

3. 桃山学院高等学校

・全日制普通科

コース名	定員(名)	
S英数コース	40	共学
英数コース	120	共学
標準コース	280	男子[アスリートクラス(専願・男子40名含む)]
国際コース	80	共学[クラスA(短期留学)40名・クラスB(長期留学)40名]
計	520	

4. 桃山学院中学校

コース名	定員(名)	
6年選抜コース	40	共学
6年進学コース	80	共学
計	120	

II 在校学生・生徒数 (2009年4月1日見込み)

1. 桃山学院大学大学院

大学院	春学期	秋学期
	121	120

※2009年度予算積算基礎より

2. 桃山学院大学

大学		春学期	秋学期
学部	1回生	1,809	1,773
	2回生	1,655	1,634
	3回生	1,559	1,543
	4回生	1,556	1,539
	5回生以上	241	155
	通年	6,732	
計	6,820	6,644	

※2009年度予算積算基礎より

IV 所管別の主な事業計画

1. 法人

〔重点目標〕

(1) 学院中長期ビジョンの推進と、それに伴う中期経営計画の策定と実施

- ① 学院経営改善の検討と推進
- ② 学院創立125周年・大学開学50周年記念事業の推進
 - 1) 寄付金の募集
 - 2) 記念式典および各種記念事業の実施
 - 3) その他の準備（年史等の刊行）

(2) 各種「引当特定資産」の充実と効率的運用

- ① 「将来構想資金引当資産」の活用と充実・補填
「第2号基本金引当資産」的要素をも内包する当該資産による中長期ビジョン推進案件への資金的対応
- ② 「退職給与引当資産」の充実（退職給与引当金期末残高の100%確保の維持）
- ③ 「減価償却引当資産」の充実（期末減価償却累計額の50%以上の確保）
- ④ 各種引当特定資産の効率的運用による安定財源の確保

(3) 諸課題への対応と推進

- ① 昭和町キャンパス整備計画の検討、推進
- ② 各種訴訟・公判への対応
- ③ 事務組織改編の実施および法人機能（広報機能含む）の強化推進
- ④ 事務職員の資質向上に向けた研修実施他各種人事制度の見直しを含む検討と推進

〔事業計画〕

(1) 「桃山学院中長期ビジョン」の推進

2005年12月に策定した学院中長期ビジョンを推進するにあたり、各計画の進捗状況を把握・点検するとともに状況に応じた新たな対応をはかる。

個別の重点課題に関しては常務理事を部会長とする検討部会を設置し、対応の基本方向をとりまとめて委員会に提言する体制で臨むとともに、必ずしも学内で浸透し、共通認識が得られていない点、および予算連動との関係を整理するため、新たな枠組みでの再構築をはかる。

(2) 中高経営計画について

2008年11月、常務理事会のもとに中高経営計画策定委員会が設置された。中学・高校の中長期にわたる生徒収容計画、教員数、教員待遇の見直し、授業料等生徒納付金について、2009年上半期を目処に計画を策定することとなった。

2009年度に常務理事会に答申される予定であり、実施にあたっての調整をはかる。

(3) 財務関係

- ① 臨時定員増の段階的解消や少子化によるきびしい経営環境に対処してゆくため、当初予算（計画ベース）において経常収支（帰属収入－消費支出）における支出超過を回避するとともに、若干の収入超過を確保する。
- ② 財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産

への繰入れを行なう。

(4) 人事・組織関係

- ① 専任教員採用については、既定の採用計画により実施する。
- ② 事務職員採用については、原則として「職員人員計画」により実施する。
- ③ 兼任講師、臨時職員等の採用については、必要最小限にて実施する。
- ④ 2009年度より事務組織の改編をおこなうことが決定しているが、改編内容の見直しを含め、今後も引き続き中長期ビジョンに掲げている組織関連規程の整備、法人管理運営体制の整備・強化等の組織基盤整備に取り組んでいく。
- ⑤ 中長期ビジョンに基づき、人事諸制度についての検討・策定を経て、導入実施を行えるように努める。
- ⑥ 法令遵守の観点から、その緊急性・必要性に応じ人事・労務関係の学院諸規程の改訂等による整備をすすめる。

(5) 学院創立125周年・大学開学50周年記念事業関係

2007年1月16日の理事会・評議員会で策定された「学院創立125周年・大学開学50周年記念事業」について、引き続き鋭意推進していく。

<主な記念事業の推進>

① 新たな基金（社会貢献基金）の創設

2008年度に同基金を創設し、寄付金より2億円を積み立てた。2009年度は2010年度より運用開始すべく、準備を進めるとともに、さらに寄付金より充当することとする。

② 新たな教育の展開については、大学においてさらに学部・学科の改組転換、新学部の設置構想を検討する。2008年度開設した中学校を全体の活性化に資するものとするとともに特色ある教育を推進する。

③ 新たな拠点の整備については、2008年度和泉キャンパスに聖ヨハネ館（50周年記念館）を建設した。昭和町キャンパスに記念体育館を建設およびカンタベリー記念館（同窓会館）のリニューアルを実施した。2009年度は昭和町キャンパスの旧体育館のリニューアル構想を策定する。

④ 関連事業

1) 本年9月26日カンタベリー大主教をお迎えして、中之島リーガロイヤルホテル大阪において、記念式典・祝賀会を開催する。約1000名規模の式典となる。

また記念行事については、

1. 4月8日 昭和町キャンパスでの学院創立125周年記念礼拝
2. 4月13日から17日 シリーズ「大学50年を振り返る」
3. 4月18日 5月30日 6月21日 記念コンサート
4. 5月30日、31日 大学50フェスタ
5. 9月12日から27日 国際ボランティア in 大阪
6. 9月25日 「学院創立125周年・大学開学50周年記念礼拝」
7. 9月25日 国際フォーラム「現代世界におけるJapanese Studies」
8. 12月24日 桃山学院×なんばパークス クリスマスフェア等を実施する。

2) 記念誌を9月に刊行し、記念式典来場者等に配布する。

⑤ 寄付金募集

1) 2007年度より引き続き記念事業寄付金について、本年度目標200,000,000円総計目標500,000,000円を達成すべく、募集活動を展開する。

(6) その他

記念体育館（ダビデ・ジム）の太陽光発電の設置検討

2. 大学

〔重点目標〕

(1) 教育研究計画

- ① 中・長期計画の推進および継続検討
- ② 国際教養学部の充実・発展
- ③ 各学部学科における特色ある教育の推進
- ④ 教育G P等に対する取り組み
- ⑤ 第三者評価に対する対応の実施
- ⑥ 大学院の整備・充実
- ⑦ S A I N T I Vの運用、S A I N T Vの構築検討
- ⑧ 情報教育の充実
- ⑨ 入試制度の検討
- ⑩ 国際交流の充実と外国人留学生の受け入れ体制の整備
- ⑪ 外国語教育の充実
- ⑫ キャリア教育の充実
- ⑬ 桃山学院高等学校および地域重点高校との連携強化
- ⑭ 南大阪地域大学コンソーシアムおよび他大学との連携強化
- ⑮ 産官学連携の強化
- ⑯ 地域社会との連携強化

(2) その他の業務計画

- ① 学生生活における支援体制の整備
- ② キャリア形成および就職活動への支援強化
- ③ 広報活動の充実
- ④ 事務システムのオープン化および学内外情報流通の推進
- ⑤ 卒業生および校友団体との連携強化
- ⑥ エクステンション活動の充実と推進
- ⑦ 委員会組織の再検討
- ⑧ 研究支援体制の整備

〔事業計画〕

(1) 教学関係

- ① 経済学部関係では、大学院博士前期課程の各コース教育内容の充実、研究科ホームページ充実、大学院生研究室の整備、学部ホームページやデータベースの充実等情報基盤の整備、中国ビジネスキャリアコースの運営推進、魅力ある学習プログラムについての検討、経済学検定試験（E R E）の受験促進を行う。
- ② 社会学部関係では、社会学科充実のための検討委員会活動、社会福祉学科実習指導体制の継続的運営、社会調査教育（社会調査士）の強化、社会福祉実習室の充実、F D活動やホームページの充実等学部教育・研究体制の強化、社会福祉学科独自の新生オリエンテーション実施、社会学科新生対象パンフレット作成等を行う。
- ③ 経営学部関係では、学部教育拡充のプロジェクトとして、①資格支援（会計プロフェッショナル育成など）、②英語力強化（T O E I Cテスト実施、英語による授業開講など）、③基礎学力育成（基礎学力テスト実施、読書習慣育成など）を引き続き実施する。また、④実践教育の充実（実務家による特別講義など）を進める。また、⑤広報（ホームページの充実な

ど)を行う。そして、今後の経営学部教育の将来構想をたてるために、研修やさまざまな主体との意見交換会などを実施する。経営学研究科においては、日中連携ビジネスコース充実のための諸政策を実施する。

- ④ 国際教養学部関係では、英語教育の一層の充実・強化、日本語教員資格コースの運営、学部・研究科運営の強化、学部広報活動の充実・強化、ホームページ更新等広報活動の充実・強化、学部・研究科FD活動の充実を行う。
- ⑤ 法学部関係では、FD活動等学部運営の強化、法職インターンシップの充実、各種検定試験等（法学検定試験、ビジネス実務法務検定試験、法科大学院適性試験講座、法職基礎対策講座、公務員対策講座）の受験・受講促進、大学院設置等の将来構想検討、TA制度の充実、学部広報活動の充実を行う。

(2) 学生生活関係

- ① 学生支援強化を目的として、学生課を「学生支援課」に改称する。
- ② 学生支援課分室について、前年度までの「体育館事務室」「学生相談室」「保健室」に加え、「ボランティア活動支援室」を担当し、総合的な課外活動支援業務に取り組む。
- ③ 学生のための大学運営を目的に、継続して運営評価アンケートを実施し、学生サービスの改善を図る。
- ④ 中長期ビジョンの推進として、「特別スポーツ強化」として社会から注目度の高い複数の「チームスポーツ（サッカー・アメリカンフットボール）」種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生の本学への帰属意識の向上をはかる。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールする。また、キャンパスコミュニティ形成支援を進める。
- ⑤ マナー向上キャンペーンを実施するとともに学生生活の安全対策を図る。
- ⑥ 学生相談運営委員会を中心として、学生相談室、各窓口でのインターカーによる学生相談の充実をはかる。
- ⑦ 学生の福利厚生では、奨学金・学研災保険などをより充実させるため点検を行う。また、奨学金や奨学ローンの返済額が過度にならないよう対応を検討する。
- ⑧ 過去2カ年度と同様「障害学生支援窓口」を設置し、窓口対応と、組織横断的なコーディネートを行う。また、今後の支援のあり方につき、継続して検討を行う。
- ⑨ 正課外活動支援（学生団体活動支援・大学祭実施支援・プレ50フェスタ・公認団体リーダートレーニング実施）のほか、フレッシュヤーズキャンプ実施、学生表彰、正課外活動報奨金（St. Andrew's Challenge-Ship制度）、正課外活動顕彰制度、ボランティアビューロー支援等の充実を図る。
- ⑩ キャリア形成支援を、キャリアセンターと連携し進める。
- ⑪ 新型インフルエンザや麻疹など感染症予防（アナウンス含む）に努める。

(3) 国際交流関係

- ① 世界の協定校から多様な国籍の交換留学生を受け入れ、キャンパスの目に見える国際化の一層の促進と、本学学生との交流の場を設ける。
- ② 正規留学生の入学選抜を厳選化し、在籍管理の徹底を目指す。
- ③ 日本語&日本文化研修プログラム及び、ビジネス・スーリズム研修プログラムの受け入れについて、優良なホスト・ファミリーを確保し、地域と本学の国際交流の接点とする。また、実りある研修プログラムとするために更に内容を精査する。
- ④ 留学生と本学学生及び、地域との交流イベントを積極的に実施する。

- ⑤ 短期海外研修について、既存のプログラム（語学研修・体験学習プログラム）に加え新たな体験学習プログラムの実施を検討する。また、中国でのフィールドワーク及び、インターンシップを実施する。
- ⑥ 長期派遣留学生数の拡大を目指し、オフィスアワー及び、TOEFL対策講座、英語文法Step Up講座を運用する。
- ⑦ 派遣学生数について、短期海外研修（夏・春）で300名、半年英語特訓留学で20名、長期派遣留学で30名を目指す。
- ⑧ 外国語教育センターとの連携を強化し、特に英語圏への留学を希望する学生の指導を協力して行えるような体制作りを検討する。
- ⑨ 新規協定校の開拓について、特に未開拓地域に重点を置く。
- ⑩ 日本人学生の海外派遣の奨励及び、留学生の受け入れを援助するために、規程に基づき奨学金及び、援助金を支給する。
- ⑪ 経済学部中国ビジネスキャリアコース及び、国際教養学部英語特待生留学の学生派遣を支援する。
- ⑫ 教員交換プログラムについて、啓明大学校（韓国）との交流を深めるとともに、他の協定校との新たな交流プログラムの可能性を検討する。
- ⑬ アカデミックアドバイザーの学生指導及び、チューター会、中国人留学生会、RA（レジデント・アシスタント）、バディシステムの学生活動を積極的に支援する。
- ⑭ 周年記念事業の一環として、協定校からの来賓による国際フォーラムを開催する。また、周年記念事業とは別に定期的な国際フォーラムを開催する。

(4) 就職関係

- ① 将来を見据えたキャリアプランをデザインできるようにプログラムを企画・実施し、卒業後も自分らしく生きていけるようにキャリア形成支援を行っていく。
- ② 入学時から、キャリア関連相談、キャリア関係の正課教育プログラム開発・実施、ガイダンスならびに各種関係プログラムの実施などを行う。
- ③ 採用情報等収集のため、年間通じて企業訪問を積極的に行っていく。
- ④ 学生との個別面談を通じ、学生自身が納得できる進路に決まるように指導する。

(5) 入試関係

- ① 前年度に引き続き、入試広報の効率的な活動を目指し、様々な面で工夫を凝らした活動を実施する。特に受験生確保のため、進学説明会、高校訪問、オープンキャンパス、入試直前対策講座など、受験生、高校教員、保護者と接する機会を増やし、学部教育やキャリア形成支援など、本学の教育活動を積極的にアピールする。
- ② 推薦入学（指定校）を近畿地区以外のエリアで拡大し、地方の優秀な生徒の確保に努める。また、編転入学制度においても指定校制度を拡大し、入学者確保を図る。
- ③ 社会情勢や他大学の動向を分析し、受験生増に繋がる入試制度を関係所管と調整しながら検討する。

(6) 広報関係

- ① 受験生に対しては「就職徹底支援主義。」、社会一般には「周年記念」を謳い、新聞、雑誌、交通広告等により広報活動を実施する。
- ② 大学広報誌アンデレクロスおよびホームページの充実を図り、学生を始め学内構成員に対して広く情報公開を行うことで、学内構成員からの情報発信を図る。

- ③ ホームページの充実を第一に、新聞・雑誌・交通広告・講演会・シンポジウム実施等により、本学の教学内容を中心とした総合的な広報活動を展開する。

(7) 研究・情報関係

- ① 教職員の協力体制を通じて、電子情報を含んだ図書資料の収集、充実を図る。
- ② 利用者支援サービスについて、従来から実施している情報リテラシー教育－新入生オリエンテーション、探索ガイダンスや、レファレンスサービスの強化を図っていく。
- ③ 読解力および表現力の向上を目指した「桃山学院大学図書館書評賞（第4回）」を実施する。
- ④ 閲覧環境の整備に関し、閲覧席の拡充・整備を行う。
- ⑤ 既に稼動した法人系・教務系オープン事務システムの安定運用を行う。
- ⑥ オープン事務システムに関する残業務を行う。
- ⑦ 2005年度・2006年度に更新した教育研究用システム(SAINTIV)について、安定運用を行う。
- ⑧ 次期教育研究用システム(SAINTV)に先立って、2009年度に一部のネットワーク機器を更新する。
- ⑨ 聖ヨハネ館におけるAVシステムを導入する。
- ⑩ 聖ヨハネ館におけるネットワーク機器を導入する。
- ⑪ 全学部の必修科目である英語で利用する、英語学習ソフトをCALL教室を導入する。

(8) その他の業務関係

- ① 本学が代表校となり他大学と共同で申請し、採択された文部科学省「戦略的大学連携支援事業」を推進する。
- ② 本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」や「地域学校教育支援」におけるボランティアやスポーツ等への学生を中心とする様々な活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめる。
- ③ 大学基準協会の認証評価の「助言」に関しては改善に向け真摯に取り組む。
- ④ 2008年度に新たに発足させた「全学FD推進委員会」の下に、本学におけるFD活動の一層の推進を図る。
- ⑤ 「桃山学院大学自己点検・評価規程（第6条）」に基づき、本学が行う教育研究活動全般にわたる自己点検・評価を実施し、『2009年度桃山学院大学自己点検・評価報告書』を作成するとともに、広く社会に公表する。
- ⑥ 温室ガス抑制策として、様々な省エネに係わる活動の推進、環境省のクールビズ賛同団体として、夏期休暇期間にクールビズの実施、冷暖房の温度設定(原則として、暖房設定温度20℃、冷房設定温度28℃)、和泉キャンパス屋内におけるゴミ分別回収の統一デザイン分別ゴミ箱設置、「リユース・リサイクル市」の実施、環境委員会を開催、学生向け広報(報告書、チラシ)を作成し配布、内モンゴル「桃山学院大学の森」1ha出資等、環境への配慮を行う。【環境委員会】
- ⑦ キリスト教講演会、チャペルアワー、フラワートーキング、ジョイント・レクチャーズ、聖書輪読会、建学の精神講話等の講演会、国際ワークキャンプ(インドネシアおよび大阪)実施、チャペルコンサート、パイプオルガン講習会・発表会、バイブルガーデン(聖書の花園)の整備・充実および小冊子発行、聖歌集の発行等を実施する。【キリスト教センター】
- ⑧ 学生一人一人のボランティア活動をサポートするため、各種ボランティア団体(NPO/NGO)の活動を紹介し、また個別の相談に対応する。学生のボランティア登録等の推進、学生スタッフの募集と育成、学生ボランティア団体のとりまとめと育成にあたる。国際協力や交流、地域の問題に関するイベントや講演会、ボランティアサークルの運営に関するセミナ

一等を実施する。【ボランティアビューロー】

- ⑨ 在籍学生に対する各種資格・技能講座として各種既存講座の充実、語学講座の充実、ベンチャービジネスプラン作成講座およびコンテスト、法学部関連講座を実施する。また、司書講習については、受講者数の確保に努める。さらに、社会人聴講生制度は開講当初からの「学生と共に学ぶ」を基本としながら、センターの体制と調整を諮り、更なる拡大・充実を進める。【エクステンション・センター】
- ⑩ 教育後援会活動が円滑に運営できるよう体制を維持する。また、支部活動の活性化を図る。
- ⑪ 大学開学50周年を期に、更に卒業生（同窓生）との関係構築に務めたい。
- ⑫ 大学の将来に対して理解・協力を得るため、大学の現状を見ていただくホームカミングデーを50フェスタ行事として開催する。【総務課校友室】

3. 高等学校

〔重点目標〕

- ① 募集定員520名の確保と入学志願者の入学ガイドラインの向上
- ② 記念体育館の合理的な運用方法の確立
- ③ 進学実績の向上および高大連携の推進
- ④ アスリートクラス指定クラブ活動の充実
- ⑤ 高校教育改革の継続・推進
- ⑥ 学校評価に対する対応と検討
- ⑦ ホームルームクラスの増加に対する対応
- ⑧ 学院創立125周年記念行事に対して積極的に取り組む

〔事業計画〕

(1) 教学関係

- ① 2007年度より掲げた高校改革が完成年度を迎えるにあたりスムーズに運営できるよう努める。
- ② 2007年度に設置したコース・クラスが完成年度を迎えるにあたりより特色あるものになるよう検討を重ねる。
- ③ 高大連携の充実を図る。

(2) 課外活動関係

- ① 全国大会・近畿大会への出場クラブの増加を目指す。
- ② アスリートクラス指定クラブがスムーズに運営できるよう努める。
- ③ 体育祭・文化祭の合理的な運営を図る。
- ④ 記念体育館の合理的な活用を図る。
- ⑤ 命の教育プログラムを推進する。

(3) 国際交流関係

- ① 交換留学（E P）制度を継続する。
- ② 社会貢献事業「スクール バイ スクール」を推進する。

(4) 進路関係

- ① 桃山学院大学への内部推薦入学の増加を目指す。
- ② 2009年度大学入試の合格実績を上回ることを目指す。

(5) 入試関係

- ① 高校入試のシステムの精度をさらに高め、入学ガイドラインを高める。

(6) 広報関係

- ① 塾を対象とした入試説明会を効率よく積極的に実施し、入学志願者数を確保する。
- ② 受験生・保護者に対して効率のよい広報媒体・方法・タイミングの検討を行い、広報効果を高める。
- ③ ホームページの充実を図る。
- ④ 保護者に対して、メールを使った緊急連絡網を活用し整備し、タイムリーな情報を提供する。

(7) 施設・設備関係

- ① 記念体育館の完成にあたり将来に向け合理的な設備配置を検討する。
- ② 昭和町キャンパス整備委員会を通じ、長期的視野のもと既存施設の整備計画を行う。
- ③ 防犯システムを活用し、生徒の安全管理を行う。

4. 中学校

〔重点目標〕

- ① 本校の教育方針に見合う生徒120名の確保
- ② 志願者数500名以上の確保
- ③ 中学完成年度までの諸問題の解決
- ④ 生徒の安全管理

〔事業計画〕

(1) 教学関係

- ① 本校の教育目標に沿って生徒一人ひとりの夢の発見に努める。
- ② 自習ステージに自学自習教材「すらら」を設置し積極的に活用する。

(2) 課外活動関係

- ① 活動施設と指導者の確保に努める。
- ② 命の教育プログラムを推進する。
- ③ 課外活動の種目を新規開始する。

(3) 入試関係

- ① 入試制度を検討し、より多くの受験生を確保すると共に本校の教育方針に見合う新入生の確保に努める。

(4) 広報関係

- ① 塾を対象とした入試説明会を効率よく積極的に実施し、入学志願者数を確保する。
- ② 受験生・保護者に対して効率のよい広報媒体・方法・タイミングの検討を行い、広報効果を高める。
- ③ ホームページの充実を図る。
- ④ 保護者に対して、メールを使った緊急連絡網を活用し整備し、タイムリーな情報を提供する。

(5) 施設・設備関係

- ① 聖マルコ館に合理的な設備を配置する。
- ② 昭和町キャンパス整備委員会を通じ、長期的視野のもと既存施設の整備計画を行う。
- ③ 防犯システムを活用し、生徒の安全管理を行う。